

事業報告書

自 平成24年4月 1日
至 平成25年3月31日

公益社団法人 学術・文化・産業ネットワーク多摩
東京都日野市程久保2-1-1

公益社団法人 学術・文化・産業ネットワーク多摩
平成24年度 事業報告書

1. 事業計画名	第Ⅰ事業 大学間連携事業
2. 事業名	単位互換(大学提供科目・産学連携科目)
3. 事業趣旨	加盟大学の正規科目を単位互換科目として提供し、学生が大学の枠を超えて受講・単位取得できる、2008年4月より開始した制度。大学提供科目の他に、企業、NPOとの提携講座を「産学連携科目」(読売新聞社提携講座・NHK提携講座・企業オムニバス講座)として単位互換制度に含め、開設大学の協力のもと実施した。
4. 事業内容・時期 および成果	◆実施時期 通年(前期・後期) ◆平成24年度の単位互換の実績 参加大学・短大:22校 科目提供大学・短大:17校 ◆大学提供科目履修実績 科目数:207科目 派遣大学数/履修者数:10大学/46名 ◆産学連携科目履修実績 科目数:3科目(読売新聞社提携講座、NHK提携講座、企業オムニバス講座) 開設大学(3大学)履修者数:467名 派遣大学数(通学・DVD)/履修者数:3大学/31名 履修者数合計:498名 <内訳> 読売新聞社提携講座(会場校:明星大学):41名(内、特別聴講学生:0名) NHK提携講座(会場校:東京工科大学):334名(内、特別聴講学生:30名) 企業オムニバス講座(会場校:明星大学):123名(内、特別聴講学生:1名)
5. 新たに力を入れた点	平成24年度より、新Webシステムを導入し、効率よく科目情報の提供やシラバスの閲覧等が出来るよう充実化を図った。 各大学担当者へヒアリングを行い、より単位互換が活発になるよう意見を伺った。また、単位互換担当者会議を開催し、現状および今後の単位互換の活性化に向けた意見交換を行った。
6. 評価	(1)微増ではあるが、単位互換で大学提供科目を履修する学生が昨年度より増加した。履修者へのアンケートでは、他大学の講義を受講出来て良かったという声が多数を占めた。反面、距離的な問題があるとの改善点も浮き彫りとなった。 (2)産学連携科目の受講者は、前年度より約100名程度の減少となった。今後は、DVD録画による自学での受講並びに、録画した授業をサーバーに保管し、単位互換加盟大学がID、パスワードを取得して授業をダウンロードできる方式など、あらゆる手法を用い、単位互換加盟大学の協力を得ながら、学生が興味のある講義を受講できることで単位互換制度が活性化するような工夫が必要である。
7. 執行体制	大学部会会議 単位互換制度参加大学・短大担当者

公益社団法人 学術・文化・産業ネットワーク多摩
平成24年度 事業報告書

1. 事業計画名	第Ⅰ事業 大学間連携事業
2. 事業名	学生教育ボランティア
3. 事業趣旨	加盟大学の学生を、加盟自治体の公立小・中学校および特別支援学校に「学生教育ボランティア」として派遣し、授業の補助や課外活動の補助を行う。 愛称は「お兄さん・お姉さん先生」。 ※ネットワーク多摩設立の2002年度より継続している。 ※事業に参画する大学および自治体は「学生教育ボランティア実施協定」を締結する。
4. 事業内容・時期 および成果	◆実施時期 通年(前期・後期) ◆平成24年度学生教育ボランティア実績 参加大学:13大学(新規1大学:玉川大学) 参加行政:7市、1特別支援学校 登録校数:103校(小学校69校、中学校33校、特別支援学校1校) 募集校数:63校(小学校46校、中学校16校、特別支援学校1校) 登録学生数内訳【大学別】: 桜美林1、大妻女子30、実践女子15、創価3、玉川16、中央113、帝京41、 東京家政学院3、東京工科9、法政5、明星22 合計258名 応募学生数内訳【大学別】: 大妻女子3、実践女子5、創価2、玉川4、中央19、帝京19、東京工科2、 法政2、明星14 合計70名 応募学生数内訳【行政別】 稲城(小0/中0)、立川(小3/中1)、八王子(小29/中6)、羽村(小0/中0)、 日野(小12/中11)、福生(小1/中0)、町田(小5/中1)、特別支援学校(1)
5. 新たに力を入れた点	(1)Web新システムを構築したことで、関係機関における連絡対応等がスムーズとなり、運用しやすくなった。 (2)学生教育ボランティア加盟行政・大学にヒアリングを行ったこと並びに担当者会議を開催したことで、次年度以降に向けてより本事業が活性化するための意見交換を行った。 (3)学生の活動場所拡大のため、参加行政の校長会並びに副校長会に出向き、本事業への登録依頼を行った。
6. 評価	平成24年度よりWeb新システムを導入したことにより、年間で258名の学生が興味を示したことで登録しており、活性化している事業の一つであるといえる。 また、関係機関からは、システム化したことで運用しやすくなったとの評価もいただいている。 しかし、登録する学生は増加したものの、例年100名を超える学生がボランティアに応募実行しているが、今年度は70名と減少している。また、募集小中学校も前年度より40校程減少している。 今後の課題としては、加盟大学・加盟行政にも積極的に働きかけ、学生への周知、募集小中学校の増加をすることが必要となってくる。
7. 執行体制	大学部会会議 参加行政担当者 参加大学担当者

公益社団法人 学術・文化・産業ネットワーク多摩
平成24年度 事業報告書

1. 事業計画名	第Ⅰ事業 大学間連携事業
2. 事業名	就職支援事業
3. 事業趣旨	文部科学省、厚生労働省が平成23年7月発表した大学新卒者就職率91.0%は、統計を取り始めた97年以降で過去最低となった。一方、大学生の就職活動は、大企業志向が顕著で従業員規模1000人未満の中堅・中小企業の求人倍率は平成24年3月卒業予定者で1.86倍となり、学生確保が難しい企業もある。 このため、経済産業省が中堅・中小企業で働く魅力を発信するプロジェクトを実施するなど、産官学が協同で就職企業の裾野を拡大する流れにある。 本法人は産官学連携事業を継続して実施し、一人でも多くの学生が就職できるように支援していく。
4. 事業内容・時期 および成果	【事業内容】 ①既卒者を対象とした就職支援事業を地域と連携して実施する。 ②在学生を対象とした就職支援事業を地域の産官学と連携して実施する。 ③求人情報を賛同企業から情報収集し、加盟大学就職部門に周知する。 ④東京しごとセンター多摩、TAMA 協会などと連携し、合同就職説明会開催や求人情報を周知する。 ⑤学生の就業力育成支援「ワークプレースメント」を実施する。 【実施計画】 情報交換と連携推進のため加盟校に定期訪問する。 【成果】 ①AGORA立川で既卒者の進路相談、応募書類の添削等を実施 ②就職支援意見交換会を開催。学生支援情報交換、連携方法の検討を協議 ③法人ホームページに求人票雛形を掲載。企業から申し込まれた求人票を加盟大学に配信した ④第9回多摩地域大学合同企業面接会を開催 2月28日 東京しごとセンター多摩 申込企業19社、申込学生7名 ⑤ワークプレースメント2012を開催 11月12～13日 東京ビッグサイト
5. 新たに力を入れた点	②大学部会よりキャリア支援に特化した意見交換会を開催して、大学間の情報交換ならびに就職支援に関する具体的な事業を検討。2月の合同企業面接会開催に至った。 ③中小企業は大学就職課との接点が少ないことから、求人票を本法人ホームページに掲載し、加盟校に情報配信を行った。また、自治体や企業のキャリア情報を大学就職課に配信した。 ⑤平成23年度に明星大学で開催した「ワークプレースメントセミナー」を東京ビッグサイトで開催した。
6. 評価	産学官連携組織を活かし、情報配信の回数は増加した。しかし、情報提供は一方通行となり、加盟校就職課と十分なコミュニケーションが図れたかとは言い難い。各校はキャリア支援体制を充実していることからニーズを把握する、全国コンソーシアム組織の事例等も踏襲して、有益あるサービス提供できるよう創意工夫が必要である。 補助金事業、スカラシップ、ワークプレースメント等の具体的方策を実益に展開できるよう、加盟機関と連携を強固にしていく。
7. 執行体制	①②③ ネットワーク多摩事務局 ④⑤ 委託業務 株式会社ナジック・アイ・サポート

公益社団法人 学術・文化・産業ネットワーク多摩
平成24年度 事業報告書

1. 事業計画名	第Ⅰ事業 大学間連携事業
2. 事業名	ひとり暮らしの学生のトータルケア事業
3. 事業趣旨	新入生・在校生対象に「一人暮らしの学生のトータルケア」を活動拠点 AGORA立川で開催する。
4. 事業内容・時期 および成果	【事業内容】 ①住居情報 ②加盟行政が提供する地域生活情報 ③学生による学校情報やアルバイトのアドバイス 【実施計画】 ○4月～7月 大学訪問(実績報告・事業打合せ) ○8月～9月 ホームページ更新、パンフレット作成・発送、相談会準備 ○10月～3月 相談会開催 【成果】 決定件数 126件(平成25年3月31日現在) ※件数4月10日現在精査中
5. 新たに力を入れた点	・高校生、保護者がトータルケア相談会場に来場して、生活相談や物件案内を担当する学生アドバイザー13名を雇用。これまで以上にお客様へ満足いただくための接客技術や情報理解など研修、勉強会を導入 ・多くの新入生、在校生にご利用いただけるよう、改めて大学担当者へ告知。特に学内相談会未開催の大学に対して資料設置を働きかけた
6. 評価	毎年、作成する「ひとり暮らしの学生のトータルケア」パンフレットは、多摩地域の情報ページが少なく、有効活用できているとは言い難い。来期は加盟大学各担当者の意見を集約し「魅力ある多摩地域」の発信ができる校正を検討する。ホームページも同様に校正を見直し、リンク未掲載の大学に提案する。
7. 執行体制	委託業務 株式会社学生情報センター

公益社団法人 学術・文化・産業ネットワーク多摩
平成24年度 事業報告書

1. 事業計画名	第Ⅰ事業 大学間連携事業
2. 事業名	第9回全国大学コンソーシアム研究交流フォーラム
3. 事業趣旨	全国大学コンソーシアム協議会の研究交流フォーラムに参加し、交流、情報収集、参考事案の収集など行い、本法人の周知と事業の一端を紹介する
4. 事業内容・時期 および成果	平成24年9月1日、2日に相模原市のグリーンホール相模原並びに相模女子大学で開催された第9回全国大学コンソーシアム研究交流フォーラムに参加し情報収集、交流を行い、第2分科会で「大学のキャリア形成支援について」を発表し、50名強の参加を得て、意見交換した。
5. 新たに力を入れた点	少子化、大学の数的増加、地域との連携(産学官連携、域学連携)の大学を取り巻く環境の変化の中から、卒業生61万人(卒業延期5万人含む)の中で就職希望者では18万人が、非正規雇用(アルバイト、派遣、未内定のための卒業延期)となっている。これは一人大学のみならず社会への重大な問題である。 このような中で現在、高校の進路指導では「就職率」が大学を選択する大きな要因となっている。 ネットワーク多摩ではリーマンショック後、連携して就職支援(合同企業説明会、面接会、他の法人の就職支援とのコラボ)を行っており、それらを大学の視点、採用側企業等の視点の両面から報告し、PBLとしても優れた事業である「学生教育ボランティア」事業をWebマッチングシステムの観点から紹介した。
6. 評価	分科会には大学学長、大学関係者、IT関連団体なども参加いただき、共感も含め有意義な意見交換ができた
7. 執行体制	事務局並びにWebマッチングシステム開発企業

公益社団法人 学術・文化・産業ネットワーク多摩
平成24年度 事業報告書

1. 事業計画名	大学間連携事業
2. 事業名	大学教育改革地域フォーラム2012 in ネットワーク多摩
3. 事業趣旨	平成24年8月中央教育審議会大学部会の答申を受け、全国各地域で「大学教育改革地域フォーラム」が開催されている。ネットワーク多摩でも加盟大学の協力を得て、本フォーラムを開催した
4. 事業内容・時期 および成果	平成24年12月16日(日)、明星大学を会場とし主催ネットワーク多摩、共催文部科学省で第17回の地域フォーラムを開催した。主題講演を板東高等教育局長、パネルディスカッションを鈴木参議院議員、梶谷電通大学長、日比谷ICU学長、佐藤多摩信理事長、司会を小川会長(明星大学学長)でメインシンポジウムを行った。参加者266名(学生65名、大学教職員169名、その他企業、NPO、財団法人など32名で盛況裏に開催できた。 あわせて、3つの分科会(雇用革命、ICT教育、グローバル時代)を開催し、メインシンポジウム含め会場参加者からの活発な意見交換が行われ、中教審答申の趣旨を深耕できた。 全体テーマ 大学教育の質的転換に向けて ～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～ メインシンポジウム「産官学連携を軸に高等教育はどう変わるか？」 一質重視の段階に入った高等教育をめぐって― 分科会(サブシンポジウム)「大学の明日を作るソリューション―中教審答申を踏まえて―」 第1セッション「学生の資質を伸ばす雇用革命」 第2セッション「ICTイノベーションと大学教育」 第3セッション「グローバル時代の日本の大学」 クロージングセッション
5. 新たに力を入れた点	産学官連携の多くの加盟機関、非加盟の関係者に広く参加いただくこと
6. 評価	多くの参加者、文科省関係者からも多くの大学、たくさんの学生、自治体企業財団などの産学官の関係者、などネットワーク多摩の特質が生かされたシンポジウムであったとの高い評価を得た。 この成果を踏まえ加盟大学を中心にさらなる大学改革を推進する。
7. 執行体制	主催:公益社団法人 学術・文化・産業ネットワーク多摩 共催:文部科学省 協賛:桜美林大学、玉川大学、明星大学、株式会社学生情報センター、株式会社クリーク・アンド・リバー社、丸善株式会社

公益社団法人 学術・文化・産業ネットワーク多摩
平成24年度 事業報告書

1. 事業計画名	第Ⅱ事業 地域の人材育成と教育力アップ																																																																								
2. 事業名	「知のミュージアム」 多摩・武蔵野検定																																																																								
3. 事業趣旨	検定事業を通じて地元の魅力を再発見し、「多摩が大好き」という人を一人でも多く育て、地域のリーダーとなってもらう事を目的としている。さらに地域学を確立して地域振興につなげる。																																																																								
4. 事業内容・時期 および成果	【検定期間】 平成24年10月1日～平成25年3月31日 【検定概要】 <table><tr><td>検定級</td><td>出題形式</td><td>問題数</td><td>時間</td><td>合格点</td><td>検定料</td></tr><tr><td>ジュニア検定</td><td>2～3択一</td><td>25問</td><td>30分</td><td>3段階評価</td><td>1,050円</td></tr><tr><td>マスター4級</td><td>2～3択一</td><td>50問</td><td>60分</td><td>60点</td><td>1,050円</td></tr><tr><td>マスター3級</td><td>2～4択一</td><td>100問</td><td>90分</td><td>70点</td><td>1,575円</td></tr><tr><td>マスター2級</td><td>2～4択一</td><td>100問</td><td>90分</td><td>70点</td><td>1,575円</td></tr><tr><td>マスター1級</td><td>択一、記述、論述</td><td>43問</td><td>90分</td><td>70点</td><td>3,150円</td></tr></table> ※検定料はジュニア検定、マスター4級を学生団体受検で無料とした。 【検定方法】 インターネット環境の整ったパソコンより受検 【会場Web検定】 平成24年11月10日（東進衛星予備校立川南口校） 9名受検 平成25年2月7日実施(明星大学) 73名受検 【会場検定1級筆記】 平成24年11月17日（たましんWinプラザ） 16名受検 【受験者数】 <table><tr><td>検定級</td><td>申込</td><td>受験者</td><td>合格者</td><td>合格率</td><td>エントリー中</td></tr><tr><td>ジュニア検定</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr><tr><td>マスター4級</td><td>109</td><td>85</td><td>84</td><td>99%</td><td>1</td></tr><tr><td>マスター3級</td><td>76</td><td>55</td><td>33</td><td>60%</td><td>2</td></tr><tr><td>マスター2級</td><td>51</td><td>48</td><td>19</td><td>40%</td><td>1</td></tr><tr><td>マスター1級</td><td>28</td><td>28</td><td>9</td><td>32%</td><td>0</td></tr></table> 【多摩めぐり30】 平成24年4月21日（土） 国立市 参加者35人 平成24年7月 7日（土） 東村山市 参加者45人	検定級	出題形式	問題数	時間	合格点	検定料	ジュニア検定	2～3択一	25問	30分	3段階評価	1,050円	マスター4級	2～3択一	50問	60分	60点	1,050円	マスター3級	2～4択一	100問	90分	70点	1,575円	マスター2級	2～4択一	100問	90分	70点	1,575円	マスター1級	択一、記述、論述	43問	90分	70点	3,150円	検定級	申込	受験者	合格者	合格率	エントリー中	ジュニア検定	0	0	0	0	0	マスター4級	109	85	84	99%	1	マスター3級	76	55	33	60%	2	マスター2級	51	48	19	40%	1	マスター1級	28	28	9	32%	0
検定級	出題形式	問題数	時間	合格点	検定料																																																																				
ジュニア検定	2～3択一	25問	30分	3段階評価	1,050円																																																																				
マスター4級	2～3択一	50問	60分	60点	1,050円																																																																				
マスター3級	2～4択一	100問	90分	70点	1,575円																																																																				
マスター2級	2～4択一	100問	90分	70点	1,575円																																																																				
マスター1級	択一、記述、論述	43問	90分	70点	3,150円																																																																				
検定級	申込	受験者	合格者	合格率	エントリー中																																																																				
ジュニア検定	0	0	0	0	0																																																																				
マスター4級	109	85	84	99%	1																																																																				
マスター3級	76	55	33	60%	2																																																																				
マスター2級	51	48	19	40%	1																																																																				
マスター1級	28	28	9	32%	0																																																																				
5. 新たに力を入れた点	多摩の魅力を発信する手段として、5年間の検定事業により培った財産を長く活用していくためにWeb検定に移行した。 多摩・武蔵野地域に興味を広めるきっかけとなり、未来の多摩地域を担う小・中学生を対象としたジュニア検定及び身近にある事柄を学ぶマスター4級を新設した。これらは、30市町村ごとの検定で受検地域が選べる検定とした。 パソコンに不慣れな方への対応として会場Web検定の実施および会場検定1級筆記試験を開催した。																																																																								
6. 評価	平成25年度の計画であったWeb検定の移行については、スタートする事ができた。 30市町村ごとの検定であるジュニア検定とマスター4級については、14市町村までの公開となった。平成26年度も引き続き順次公開して行く予定。 受検者数は当初1,000人を計画していたが、結果264人と大幅に下回った。Web検定を広く周知せず、次年度は加盟機関の協力を得ながら受検者の拡大に繋げて行く。																																																																								
7. 執行体制	多摩・武蔵野検定実行委員会 多摩・武蔵野検定学術委員会 ネットワーク多摩事務局																																																																								

公益社団法人 学術・文化・産業ネットワーク多摩
平成24年度 事業報告書

1. 事業計画名	第II事業 地域の人材育成と教育力アップ
2. 事業名	女性の学び支援事業
3. 事業趣旨	子育て中の女性が抱える閉塞感やモヤモヤ、将来への不安感を、本事業のイベントを受講することで、今の自分の気持ちや置かれた立場を他の受講生と共有し、疎外感から解放され、さらに自分を見つめ、3年後、5年後の自分をイメージすることで人生を前向きに考えられるようになることを目的とする。
4. 事業内容・時期 および成果	「ココロに効くサブリ！現役ママが思わず笑顔になるココロのトレーニング講座」 開催：2012年5月15日～6月26日 毎週火曜日 10:00～12:00(全7回) 2012年9月11日(火) 10:00～12:00 【フォローアップ講座】 13:00～15:00 【講座参加者による同窓会】 会場：多摩市立関戸公民館8階 大会議室 対象：専業主婦 内容： 第1回 講師：中央大学法学部教授 広岡 守穂 氏／ファシリテーター：NPO法人エンツリー 山本 智子 氏、廣木 佑美 氏 5月15日(火)：基調講演「子育て中だからできること」／参加者同士自己紹介 第2回～3回 講師：SATグループカウンセラー 荒井 やよい 氏 5月22日(火)：わたしとのよい関係づくりのために ～アサーティブネス①～ 5月29日(火)：わたしとのよい関係づくりのために ～アサーティブネス②～ 第4回～6回 講師：キャリア・カウンセラー 林 明理 氏 6月5日(火)：わたしを知ろう ～ここちよい自分～ 6月12日(火)：わたしが今できること ～自分時間のつくり方、必要な情報の集め方～ 6月19日(火)：なりたいわたしに向かって ～5年後のわたし～ 第7回 講師：NPO法人エンツリー 副理事長 山本 智子 氏 6月26日(火)：なりたいわたしへのアプローチ ～わたしの一步を伝えましょう～ ／修了式 フォローアップ講座 講師：あいのひろ学園主宰、カウンセラー 近藤 裕美 氏 9月11日(火)：わくわくしながら夢を叶える☆ドリームマップ 参加者数／修了者数 19名(定員25名)／15名(引越しや就職等により講座参加辞退) フォローアップ講座参加者数：14名(過去の講座の卒業生も参加) 同窓会参加者数：6名(＋荒井講師) 部会運営 本事業実施にあたり、女性の学び支援部会を今年度は2度、臨時部会を1度開催した。
5. 新たに力を入れた点	今回の講座では、一層の講座内容の幅を広げるため、広岡講師以外の講師を新しい講師に変更。
6. 評価	講座内容については毎回高い評価を参加者から得ており、講師選定は成功と言える。 一方で、今年度講座は定員割れとなったため、今後の広報手段については主催、共催機関の広告媒体だけではなく、前年度実施の行政にも宣伝協力を依頼するなどの体制づくりが必要かと思われる。
7. 執行体制	主催：公益社団法人 学術・文化・産業ネットワーク多摩／多摩市 業務委託(企画・運営)：NPO法人エンツリー

公益社団法人 学術・文化・産業ネットワーク多摩
平成24年度 事業報告書

1. 事業計画名	第Ⅱ事業 地域の人材育成と教育力アップ
2. 事業名	福生市「まちづくり振興推進事業委託」
3. 事業趣旨	シティセールスの観点から「訪れたい、住みたい、自慢したい」まちづくりを推進するため、人口誘致定着問題への取組み、商店街振興に関する取組み、まちの魅力情報発信に関する取組みの業務支援をする。
4. 事業内容・時期 および成果	(1)人口誘致定着問題への取組み ・転入、転出世帯に対するアンケートによる分析 福生市の転入者及び転出者を対象としたアンケートの回答を視覚情報化する。 随時アンケートのデータを入力、集計し、定期的にグラフを作成、更新している。 転入転出アンケート合計314件。24年度のアンケート報告会は3月19日に実施した。 ・中学校における「わがまちの宝探し」実施支援 多摩地域の大学生と福生市の中学校が協同し、地域の魅力を宝として調べ学習を行う。 フィールドワーク、まとめ、発表を通し、大学生が全面的に関わるシステムを構築し、魅力的な教育を行う。 また、中学生の地域理解を促し、福生市への定着を図る。 調べ学習(6～8月)、実地調査(9月)、まとめ(9～10月)、学年発表(10月)、反省会(12月) プロジェクト終了後に生徒と教員、訪問先へアンケートを実施した。 分析結果をもとに提案書を作成し、反省会を実施した。 ・転入転出アンケート報告会:「福生の人口問題を考える」 アンケート調査が市政にとって有益な情報収集となることを職員に認識してもらうとともに、23年度のアンケート分析結果 解説を通して、アンケートから読み取れる福生市の状況について把握してもらい、業務に活用してもらうために実施した。 日時:平成24年5月10日 10時00分～11時30分 場所:福生市役所第1棟第2会議室 対象:福生市役所部課長職職員、その他職員 計50人程度 (2)商店街振興に関する取組み ・インターナショナルフェア 多摩地域の大学生と福生市の商店街が連携し、ビジネスに結びつくイベントを行う。 10月6、7日にイベントを開催し、商店主と訪問者へアンケートを実施した。 分析結果をもとに提案書を作成し、12月14日に反省会を実施した。 2～3月にかけて、16号沿いの商店街に商店街振興に関するヒアリング調査を行い結果を商工会に報告した。 ・コミュニティビジネス(CB)セミナー コミュニティビジネスに精通している方々をお招きし、事業者育成の講座を開催。 福生市でどのような活動が必要とされているか、ビジネスの観点から考える。 第1弾5月31日～7月5日(毎週木曜全6回)、第2弾10月2日～11月6日(毎週火曜全6回) (3)まちの魅力情報発信に関する取組み ・コミュニティビジネス(CB)研修会 コミュニティビジネスについて理解を深めてもらうために、福生市役所職員を対象とした研修会を行った。 実際にコミュニティビジネスの場で活躍している方々に講演いただき、それぞれの事業についてご紹介いただいた。 日時:平成24年6月27日 10時00分～12時00分 場所:福生市役所第1棟第2会議室 対象:福生市役所職員 計50人程度
5. 新たに力を入れた点	・「わがまちの宝探し」、「商店街振興」、「転入・転出アンケート調査」の取組みに参加する、研究室や学生をネットワーク多摩 加盟大学から公募した。 ・コミュニティビジネス研修会の実施 ・転入転出アンケート報告会の実施(計2回)
6. 評価	「わがまちの宝探し」:生徒、先生ともに満足度が高く、次年度も継続することが決定した。 「インターナショナルフェア」:天候不良などに見舞われ、前年度に比べ来場者が少なかったが、学生の活動が評価され、次年度も引き続き学生が携っていく。 「CBセミナー」:全2回の実施で2回とも満足度が高く、次年度以降継続していく。 「転入・転出アンケート調査」:今年度より帝京大学池教授に分析の依頼をしている。住民基本台帳のデータと合わせて分析し、 人口減少の原因をより正確に分析していただいた。次年度以降も引き続き依頼する。
7. 執行体制	「わがまちの宝探し」:福生市、福生市教育委員会、福生第三中学校、中央大学細野研究室 「インターナショナルフェア」:福生市、福生市商工会、インターナショナルフェア実行委員会、中央大学細野研究室 「CBセミナー」:福生市、NPO法人エンツリー 「転入・転出アンケート調査」:福生市、帝京大学 池周一郎教授

公益社団法人 学術・文化・産業ネットワーク多摩
平成24年度 事業報告書

1. 事業計画名	第Ⅱ事業 地域の人材育成と教育力アップ																
2. 事業名	連続公開講座 「花と緑と知のミュージアム」																
3. 事業趣旨	多摩地域のビジネス界や自治体のトップリーダーから、その生き方や仕事ぶり、そこから学んだ教訓の数々を話していただくことで、多摩地域在住の市民及び多摩地域で学ぶ学生を中心に、多くの方々に多摩地域の魅力と自然の素晴らしさ、今後における展望などを身近に感じ理解していただくことを目的とする。																
4. 事業内容・時期 および成果	【開催期間】 平成24年6月20日～平成25年3月2日 【開催場所】 たましんWinセンター及び昭和記念公園「花みどり文化センター」 【インタビュアー】 細野助博氏(ネットワーク多摩専務理事)(中央大学大学院教授) 椎名豊勝氏(日本樹木医会副会長) 【参加費】 無 料 【内 容】 全8回 <table border="0"> <tr> <td>第1回 原田純子氏 (株)メルヘン代表 「日本人にマッチした手作りサンドとは」</td><td>参加者 40名</td></tr> <tr> <td>第2回 大竹道茂氏 江戸・東京・伝統野菜研究会代表 「江戸東京野菜の未来」</td><td>参加者 10名</td></tr> <tr> <td>第3回 武藤清氏 (株)星光社代表 「サラリーマン・自由業・中小企業」</td><td>参加者 42名</td></tr> <tr> <td>第4回 清水庄平氏 立川市長 「国営昭和記念公園から広がる花・みどり」</td><td>参加者 50名</td></tr> <tr> <td>第5回 吉田稔氏 白山工業(株)代表 「防災分野で起業する、ということ」</td><td>参加者 20名</td></tr> <tr> <td>第6回 中村文明氏 多摩川源流研究所所長 「多摩川源流と価値その可能性を語る」</td><td>参加者 25名</td></tr> <tr> <td>第7回 上野賢美氏 共立工業(株)代表</td><td>講師都合により中止</td></tr> <tr> <td>第8回 豊泉喜一氏 立川民俗の会代表 「多摩を語る」</td><td>参加者 32名</td></tr> </table> 全7回受講者数合計 219名	第1回 原田純子氏 (株)メルヘン代表 「日本人にマッチした手作りサンドとは」	参加者 40名	第2回 大竹道茂氏 江戸・東京・伝統野菜研究会代表 「江戸東京野菜の未来」	参加者 10名	第3回 武藤清氏 (株)星光社代表 「サラリーマン・自由業・中小企業」	参加者 42名	第4回 清水庄平氏 立川市長 「国営昭和記念公園から広がる花・みどり」	参加者 50名	第5回 吉田稔氏 白山工業(株)代表 「防災分野で起業する、ということ」	参加者 20名	第6回 中村文明氏 多摩川源流研究所所長 「多摩川源流と価値その可能性を語る」	参加者 25名	第7回 上野賢美氏 共立工業(株)代表	講師都合により中止	第8回 豊泉喜一氏 立川民俗の会代表 「多摩を語る」	参加者 32名
第1回 原田純子氏 (株)メルヘン代表 「日本人にマッチした手作りサンドとは」	参加者 40名																
第2回 大竹道茂氏 江戸・東京・伝統野菜研究会代表 「江戸東京野菜の未来」	参加者 10名																
第3回 武藤清氏 (株)星光社代表 「サラリーマン・自由業・中小企業」	参加者 42名																
第4回 清水庄平氏 立川市長 「国営昭和記念公園から広がる花・みどり」	参加者 50名																
第5回 吉田稔氏 白山工業(株)代表 「防災分野で起業する、ということ」	参加者 20名																
第6回 中村文明氏 多摩川源流研究所所長 「多摩川源流と価値その可能性を語る」	参加者 25名																
第7回 上野賢美氏 共立工業(株)代表	講師都合により中止																
第8回 豊泉喜一氏 立川民俗の会代表 「多摩を語る」	参加者 32名																
5. 新たに力を入れた点	広く多くの市民、大学生、社会人に聴講頂く為に、訪問によるPR、チラシの増刷等広報活動に力を入れた。																
6. 評価	市長や多摩地域で活躍される中小企業のトップの方々、多摩の魅力を伝える為に活躍されている方々に講演いただいた。 参加者からは、講演の内容についての評判はよく、「次回も参加したい」という意見を頂いているが、開催回毎に参加者にばらつきがあり、広報のやり方に課題が残った。																
7. 執行体制	主催:公益社団法人 学術・文化・産業ネットワーク多摩 共催:国営昭和記念公園、多摩信用金庫、一般財団法人公園財団 協力:細野研究室																

公益社団法人 学術・文化・産業ネットワーク多摩
平成24年度 事業報告書

1. 事業計画名	第Ⅱ事業 地域の人材育成と教育力アップ
2. 事業名	大学教員研修
3. 事業趣旨	各大学では、それぞれの実情に応じて、様々なタイプの新任教員研修が実施されているが、実際に行われている授業の教育内容にまで踏み込んだ研修を実施している大学は希であるように思われる。入学者選抜方法の多様化による平均的学生の学力と学習意欲の低下、学習に集中できない事情のある学生の増加、就職活動の長期化に伴う実質的な学習時間の減少、卒業生の資質に対する社会的要請の高まり、長期不況下の就職難による学生の目的喪失など、シラバスの作成や実際の授業実施に際して考慮すべき多くの困難が介在している。大学教員は毎日の授業の中で、恐らく20年前の教員なら予想することも出来ないような事態に直面し当惑しているといえる。これらの問題に少しでも解決を見出す研修事業である。
4. 事業内容・時期 および成果	テーマ: 大学職員の挑戦と実践～職員が変われば大学は変わるⅡ～ 講演: 「シラバスと授業設計」 慶応大学 井下 理教授 講演: 「大人数教室での効果的な授業運営方法」 桜美林大学 荒木晶子教授 講演: 「学生を巻き込んだ授業実践」 大妻女子大学 生田 茂教授 講演: 「学生参加型授業の実践」 明星大学 菊池滋夫教授 シンポジウム、グループ討議、パネル討議 期日: 9月3日(月)～5日(水) (2泊3日) 場所: 八王子セミナーハウス
5. 新たに力を入れた点	平成23年度より始めた事業で、今回で第2回目になる。力を入れた点は(1)ユニバーサル・アクセスの時代の大学教員にふさわしい教育方法を身につけるにはどうすればよいのか、(2)所属学部教育目的と受講学生の能力とニーズに見合った内容を持つ授業を構想し実施するための必要最小限の能力を習得するには如何すればよいのか(3)前期(春学期)の授業に対する学生の授業評価に基づいて、学生が不満に思う事項を改善するための実行可能な方策を見出すことを具体的な到達目的とした。
6. 評価	参加者: 42名 大学教員として、学生とのかかわり方、指導方法の基本を学ぶことが出来た。 各大学の新任教員の皆様が、日々の授業で感じておられる問題点や、それらに対する授業内での解決方法や工夫などを共有できた。 大学における様々な教育実践の形を学ぶことが出来た。とくに学生への学習指導の新しい取組み、および「従来型」の大学教育の課題と利点について考える機会になった。
7. 執行体制	主催: 公益財団法人 大学セミナーハウス 共催: 公益社団法人 学術・文化・産業ネットワーク多摩

公益社団法人 学術・文化・産業ネットワーク多摩
平成24年度 事業報告書

1. 事業計画名	第II事業 地域の人材育成と教育力アップ
2. 事業名	多摩地域行政連携事業
3. 事業趣旨	多摩地域30行政の連携促進を行うことで、単一行政では解決できない課題等の解決や、複数行政が連携することで発揮されるシナジー効果を多摩地域の活性化につなげる。 また、ネットワーク多摩に加盟する大学や企業・団体との連携促進策を検討し、産官学連携による教育の質の深化、産業の発展を地域全体で行なっていく。
4. 事業内容・時期 および成果	行政間連携、官学連携方法の模索、また多摩地域30市町村の加盟対策についてを年5回の行政部会にて検討した。 具体的な検討事項として以下の内容が議論された。 ①学生の行政ボランティア派遣【ゼミ単位】(学生の専攻の延長線上:選挙管理委員会等) ②学生の行政ボランティア派遣【個人単位】(イベント等へ参加により地域の知識を深める) ③政策サマースクールの開催 ④行政事業の情報共有 ⑤加盟行政増加策 ⑥加盟行政からのネットワーク多摩への職員派遣 部会運営 第1回:4月27日、第2回:7月19日、第3回:10月11日、第4回:12月19日、第5回:2月5日 成果 政策サマースクールの企画(平成25年度8月、加盟大学にて実施予定) ねらい:行政職員と学生が今後到来する人口減少社会を見据え、広域多摩地域のあり方をテーマとした勉強会や交流する場を設け、以下の達成を目指す。 行政:学生の柔軟な発想を政策立案に活用する場とする。意見交換を通し、若手行政職員の広域多摩地域に対する意識を高めるとともに、将来のまちづくりのビジョンを検討し、方向性を示す。 大学:今後、地域を担う学生の行政政策に対する意識を高め、地域課題に対する問題意識を持たせる。 内容:基調講演／加盟行政課題検討ワークショップ(仮) 官学連携事例のリサーチにおける行政ニーズ解決策のマッチング 官学連携における学生ボランティア派遣 具体的方法が検討でき次第、行政部会と大学部会の連携のため座長同士の会談を予定。
5. 新たに力を入れた点	今年度から加盟9行政が持ち回り(行政番号順)で座長を務める。 (今年度は八王子市、次年度は立川市が座長を務める。) 昨年度までは「情報共有」が主たる目的であったが、今年度は「成果物」を作ることを目的とした部会運営を行なった。
6. 評価	今年度の部会運営を通して活動内容が議論されたことで、具体的成果物(目的)が定まった。目的が定まることで内外的にも事業内容の明確な宣伝が出来るため、加盟行政の促進につながることを期待される。また、立川市からの発案により事業計画の策定、確立が行われ、問題視されていた存在意義の明確化を達成することができた。
7. 執行体制	行政部会:八王子市、稲城市、小金井市、立川市、多摩市、羽村市、 日野市、福生市、町田市 ネットワーク多摩事務局

公益社団法人 学術・文化・産業ネットワーク多摩
平成24年度 事業報告書

1. 事業計画名	国際交流事業
2. 事業名	留学生支援事業、キャンパスTAMAプロジェクト
3. 事業趣旨	加盟機関、特に大学の経営に資する留学生に関わる共通の施策、支援策につき連携する
4. 事業内容・時期 および成果	平成23年度は本事業に予算配賦をし「留学生のための社会見学研修会」を開催したが、平成24年度は予算配賦ができなかったため、キャンパスアジア構想の推進、グローバル化、大学の国際化などを連携して協議する「キャンパスTAMAプロジェクト」を平成23年11月に立ち上げ、このような方策で事業連携を提案した。 本年度は、首都圏の日本語学校(19,000名在籍し日本での就職、進学予備軍)進路指導の教員と加盟大学のマッチング会を提案したが、経費負担での参加が数大 学となり、実施をしなかった。
5. 新たに力を入れた点	執行予算がない中、加盟大学の共通の課題、連携するシナジー効果に力点を置き、企画提案型の事業とした
6. 評価	第3事業として国際交流を行ってきたが、予算、実施体制、加盟機関の参加が難しいため、今後は第1事業として展開していく
7. 執行体制	国際交流部会、事務局

公益社団法人 学術・文化・産業ネットワーク多摩
平成24年度 事業報告書

1. 事業計画名	第IV事業 環境社会貢献事業
2. 事業名	「Zero Paper Emission」Project ～多摩地域におけるペーパーリサイクル推進プロジェクト～
3. 事業趣旨	加盟大学、企業における紙の資源化を推進し、多摩地域全体で紙のリサイクル率を向上させ、最終的には紙のリサイクル率100%を目指す。各加盟機関における紙ごみによる廃棄物処理コストを削減する。
4. 事業内容・時期 および成果	プロジェクトの具体的な流れ ①加盟大学の古紙リサイクルの現状および、廃棄物における紙ごみの排出状況の調査を行う。 (排出量、分別状況、古紙買取金額または廃棄コストなど) ②古紙として回収可能な紙ごみ(シュレッター・パンフ・封筒などの現状廃棄しているもの)のリサイクルフロー構築(古紙業者の選定、コスト効果試算) ③古紙買取により新たに発生する収益についての活用方法の策定(NPO等の社会福祉団体への寄付による社会貢献、大学の環境整備等への予算化、etc) → 古紙買取収益の一部は、事務局経費としてネットワーク多摩へも還元する。 ④フロー確立後も定期的な調査を実施し、課題抽出と更なるリサイクル推進のための方策を策定する(リサイクル状況レポートや環境報告書等への活用をすることも可能) 実施時期 ①:4月～5月、②:5月～6月、③6月～7月、④7月～9月頃を予定。 成果 加盟大学を中心に協力要請を行ない、返答をいただけた機関は16機関。担当者とのアポイントがとれた機関に個別訪問を行い本プロジェクトの説明を行なった。うち、2機関が学内で導入を検討(成蹊学園、白百合女子大学)。※成蹊学園は検討の結果今回は見送ることになった。 部会運営 第1回:5月28日、第2回:7月9日、第3回:9月21日、第4回:11月26日、第5回:1月28日、第6回:3月18日 (体験型環境教育プロジェクトも同日)
5. 新たに力を入れた点	※今年度からの企画のためなし
6. 評価	加盟機関の窓口と環境関係の担当者が異なり、情報共有ができていないこともあり、本事業への協力度に違いがあり打ち合わせにいたることが少なかった。また、現在収集等を委託している他の業者との兼ね合いもあり、本事業への移行はなかなかむずかしい印象を受ける。 打ち合わせ日程の調整、学内審査にかかる時間に多くの時間を要するため、上記スケジュール通りには進められなかった。 売却益還元の仕組みについては説明をしたどの機関でも興味を持っていただいている。
7. 執行体制	環境・防災・福祉貢献部会 参加機関担当者 ネットワーク多摩、環境総合研究会

公益社団法人 学術・文化・産業ネットワーク多摩
平成24年度 事業報告書

1. 事業計画名	第IV事業 体験型環境教育プロジェクト
2. 事業名	第10回それいけ！たまレンジャー！！
3. 事業趣旨	子どもたちに多摩を好きになってもらうことを主たるテーマとしている。 多摩地域の自然・環境・歴史について体験を通して学ぶことで興味を持たせ、アクティビティを通し子どもたち自身から出た疑問や発見から知識を身につけ、多摩に住む先輩たちのフォローにより知識を深化させていく。この一連のサイクルを通し、子どもたちに多摩への愛着を持ってもらいたいと考えている。 企画として参加する学生はそれぞれの専攻分野で学んだ内容を実社会で試すことで、今後の学びに活かしたり、興味の幅を広める。また、1つのイベントが出来上がる課程を通し、スケジュール能力、コミュニケーション能力、ドキュメンテーション能力、プレゼンテーション能力など、社会人としての基礎力の養成を行う。 学生×住民×地域のつながりを強め、それぞれの視点から地域愛の醸成を目指す
4. 事業内容・時期および成果	第10回それいけ！たまレンジャー！！ 日時:8月24日(金)～25日(土) 1泊2日の宿泊企画(2日目のみの参加も可) 場所:公益財団法人 大学セミナーハウス(24日)、国営昭和記念公園 花みどり文化センター(25日) 内容:1日目 複数のプログラムから子どもたちが自由に選択して参加する内容を決める「選べる自由研究」、「バーベキュー作り」「キャンプファイヤー」「星空観察」 2日目 「バラ染め体験」、多摩の魅力を題材にした「多摩歌留多づくり」 参加者数:1日目 5名、2日目 18名 費用:宿泊プラン 3,500円 2日目のみ 無料 成果:第10回は参加者数が定員に満たなかったが、最寄駅まで迎えに行くなどの綿密な対応ができた。また長時間子どもたちと一緒にいることで、子どもたちと大学生との強い関係づくりが出来た。これまでは室内の活動がメインのイベントであったが、子どもたちの感想や保護者へのヒアリングによると外での活動のほうが多く参加したくなるという意見が多く、第11回イベントの企画に反映できた。
5. 新たに力を入れた点	第10回では、学生委員会の発案により、参加対象を小学生～中学生に広げ、宿泊企画を初めて開催した。宿泊企画にあたり一層の安全対策を強化すべく、これまで保険のみでの対応に加え、ひの社会教育センターに安全対策の監修、指導を仰ぎ、併せて保護者説明会を行った。 より一層地域とのつながりのある企画を目指し、ルミネ立川で開催された「あおぞらガーデン」とコラボした企画やセミナーハウスで活躍する芸術家の方に講師を依頼した企画も実施。さらに地元ラジオ局での宣伝活動など、地域との関わりづくりも積極的に行なった。 これまでボランティアスタッフの対象は大学生・院生だったが、高校生も対象とした。 企画段階で外部との折衝に学生を直接関わらせ、社会教育の側面を強化した。
6. 評価	宣伝を兼ね、外部団体と関わりを持つことで参加者増とともに、N.G.I.自体の認知度が高まり、イベントへの参加の要請やワークショップ実施の依頼などを多数いただいている。ネットワーク多摩の広告効果にもつながっている。高校生の参加申出も入るようになった。 運営面に関しては学生の進級に伴う勉学の多忙さにより、イベント企画がスムーズに行えないという面も出てきているため、スケジュール能力の育成とともに、メンバーの拡充も必須事項と考えられる。また長期の企画になるため金銭面の対応含め、モチベーションの維持も課題にあがっている。 外部との折衝については社会教育の面も含め行っているがまだまだ至らない点が多く、問題が発生することもある。今後社会との関わりについてはサポートをしつつ指導をしていく必要がある。 しかし、結成後4度目のイベントを間近に控え、個々人のスキルは大幅にアップし、それぞれが特性を活かして企画の検討の際や運営の際に能動的に力を発揮している。とりわけイベント本番での臨機応変な対応には目をみはるものがある。今後はメンバーにさらなる権限を譲渡することで成長を促していきたいと考えている。
7. 執行体制	環境・防災・福祉貢献部会 ネットワーク多摩事務局 企画運営:N.G.I.【ネットワーク多摩学生委員会】

公益社団法人 学術・文化・産業ネットワーク多摩
平成24年度 事業報告書

1. 事業計画名	第IV事業 体験型環境教育プロジェクト
2. 事業名	第11回それいけ！たまレンジャー！！
3. 事業趣旨	前ページと同じ。
4. 事業内容・時期 および成果	第11回それいけ！たまレンジャー！！ 日時:3月30日(土) 10:00～16:00頃 雨天時順延31日 場所:高尾山 1号路(清滝駅～高尾山薬王院～山頂) 内容:多摩の魅力(自然・歴史・自然)を題材にした謎解きハイキング 費用:ケーブルカー代金 中学生以上 470円、小学生以下 230円 成果:第11回は外部での多数の告知活動の成果もあり前回は上回る参加者を募ることが出来た。(告知活動詳細については5. 新たに力を入れた点を参照)また、参加者・ボランティア共に直前のキャンセルが減ったのは事前説明会の効果が大きいと思われる。 当日はあいにくの小雨となったが、申込みのあったほぼすべての方にご参加いただいた。 謎解き+ハイキングという企画に対し92.9%が良かったという回答をしていることから企画内容に対する期待が高かったのではないかと推察される。 本番時は小雨ではあったもののプログラム自体に大きな変更を出すことなく実施することが出来た。 参加者に行なったアンケートによると、子どもたちの95.5%が楽しかった、86.4%が環境に興味を持てたという回答。また保護者の71.4%が大満足、28.6%が満足と回答。申込み時から学生に対応をさせたが、その点に関しても肯定的な意見が多く寄せられた。 定期的に参加してくれる子も多く、今後さらに参加者を増加させることができると思われる。 次回への課題としては企画のスケジュールリングがあげられるので、この点については早めの段階からフォローしていく。
5. 新たに力を入れた点	第11回では初となる高尾山を舞台にした企画を行なった。 第10回に引き続き安全面監修はひの社会教育センターの協力をいただいた。 集客増大策として行政やNPOが実施する以下のイベントに積極的に参加し、告知活動を行なった。 2月23日:多摩市ボランティアセンター主催 ボランティア祭りへブース出展(多摩市) 3月3日:NPO法人あばれんぼキャンプ主催 ウォークラリー大会へブース出展(府中市) 3月20日:立川市子ども未来センターグランドオープニングイベントへブース出展(立川市)
6. 評価	前ページと同じ。
7. 執行体制	環境・防災・福祉貢献部会 ネットワーク多摩事務局 企画運営:N.G.I.【ネットワーク多摩学生委員会】

公益社団法人 学術・文化・産業ネットワーク多摩
平成24年度 事業報告書

1. 事業計画名	第Ⅴ事業 運営、組織、人事、財政、広報
2. 事業名	広報活動
3. 事業趣旨	加盟機関等との連携を通して、法人事業のほか、多摩地域を主とした学術・文化・産業等の情報を発信することで、多摩地域のまちづくりや人材育成のための事業の活性化に寄与することを目指していく。
4. 事業内容・時期 および成果	①ネットワーク多摩要覧 発行：8月 発行部数：3,000部 ②ホームページ・トップページの画像を随時更新 ③ホームページの「お知らせ」 法人事業のほか、加盟機関等からの学術・文化・産業に係る事業等を紹介。 2012年4月～2013年3月掲載記事：114件 ④事務局ニュース・・・6月、9月、12月、3月に加盟機関に配信 ⑤メールマガジン 2012年4月～2013年3月発行巻・号 Vol. 12-12～46, Vol. 13-1～12(計47回配信) 登録件数 441件(最少)、460件(最多) 掲載記事(機関別) 事務局97件、加盟機関45件、その他32件 ⑥出版物 『第4回多摩地域大学理事長・学長会議報告書 大震災後における日本の大学の使命』(2012年12月発行) 『大学教育改革地域フォーラム2012 in ネットワーク多摩報告書 大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的にかんがえる力を育成する大学へ～』(2013年3月発行) ⑦その他広報活動 加盟機関等からの広報依頼に対して、加盟機関へのメールによる周知、メールマガジンへの掲載、ホームページへの掲載等の対応を行った。
5. 新たに力を入れた点	①団体設立10周年を機に、メールマガジンVol.12-24(2012年7月6日)よりタマケン・メルマガ版の掲載を開始した。毎回、多摩・武蔵野検定模擬問題より、問題、解答、解説を掲載。多摩・武蔵野地域の自然・地理・文化・歴史・産業等の魅力を発信し、併せて多摩・武蔵野検定の普及・定着を図ることを目的とした。 ②ホームページのトップページ画像を定期的に(月1回程度)更新し、法人主催イベントの周知を図った。
6. 評価	①法人要覧をはじめ、各種広報物の制作を事務局で行い、印刷費、デザイン費等に係る費用のコスト削減(予算執行率17.8%)に努めた。 ②事業計画では「多摩だより」の発行を予定していたが、予算および費用対効果を検討し、今年度の発行は見送った。 ③法人事業の周知等において、行政広報誌への掲載回数は増えたが、各種イベントの集客率アップを図るため、さらに広報に注力していく必要がある。 ④全国都市緑化フェアTOKYO実行委員会より本法人に感謝状が贈られた。
7. 執行体制	ネットワーク多摩事務局

平成24年度 補助金・委託金事業報告

単位 円

事業名	助成または委託先	金額
知のミュージアム「多摩・武蔵野検定」	東京都市町村自治調査会	5,000,000
福生市まちづくり振興推進事業	福生市	6,127,113
合計	2件	11,127,113

平成24年度 事業別予算と決算の対比表

第Ⅰ事業（大学間連携事業）

単位 円

予算額	決算額	執行率
2,118,000	4,024,164	190.0%

第Ⅱ事業（地域の人材育成と教育力の向上・調査研究事業）

予算額	決算額	執行率
13,372,000	13,596,930	101.7%

第Ⅲ事業（留学生支援事業）

予算額	決算額	執行率
50,000	0	0%

第Ⅳ事業（環境と福祉に優しいまちづくり支援事業）

予算額	決算額	執行率
290,000	303,973	104.8%

第Ⅴ事業（その他事業）

予算額	決算額	執行率
300,000	57,350	19.1%

<事業費総額>

予算額	決算額	執行率
16,130,000	17,982,417	111.5%

※第Ⅰ事業については、予算計上していない大学教育改革地域フォーラムの実績数字が含まれています。